

正法寺新聞

第5号

2014年8月発行



苦しいのは
自分を中心に
しているからだ

- ◆学習会のお知らせ
- ◆お寺の行事から
- ◆宗祖親鸞聖人
七百五十回御遠忌法要特集①
～佐世保別院改築報告～
- ◆「洗心会」会報
- ◆住職が語る『正信偈』
- ◆Q&Aコーナー・正法寺キッズ・
ライブ報告

『宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要』
特集記事始まります！！

〈表紙の言葉から〉
何かに行き詰まって思い悩む時、そこには自分だけのものさしが横たわっているかもしれない。自分だけのものさしは自分の都合でころころと変化します。また、自分が正しいのだという思いは時に自分自身をも苦しめます。そのような我々の姿を言い当ててくださるのが仏様の教えです。仏様の教えによって照らされる『わたくしの真実の姿』を見つめていく。その道に終わりはありません。



お知らせ

9月より学習会に夜の部が加わります!!

New!!

—夜の学習会—
毎月第2土曜日

1回目は9月13日(土)

テキスト たんにしょう
『歎異抄』

19時30分～21時

—昼の学習会—
毎月28日

【12月のみ26日(金)】

テキスト
『書いて学ぶ
親鸞の言葉 正信偈』
13時30分～15時



6月の昼の学習会風景。まず『正信偈』をなぞって書き、学習します。昼の学習会へのご参加もお待ちしています。

9月より夜の学習会を開始いたします。内容は親鸞聖人の『歎異抄』です。内容が難解でもありますので、解説本を用い初心者の方でも学び易い形を考えています。また、推進員の学習会の延長にも来て頂きやすい学習会になるのではないのでしょうか。もちろん女性の方も若い方も共に教えを学んで行きましょう。



平成26年3月4日に毎年恒例の勤行講習会を行いました。この講習会では正信偈の読み方や、お内仏(お仏壇)の御給仕の仕方などを講義しております。毎回少しずつ内容を変えながら開催しております。関心のある方はぜひお越しください。年に二回開催で、次回は11月の予定です。

お寺の行事から

勤行講習会に幅広い年齢の方が来られています!

当日の感想

- 今までいかに自己流で荘厳や作法をしてきたか分かりました。
- お勤め、分からないことばかりで大変ためになりました。
- 初めて参加しました。知らない事ばかりでしたが少しでも参加して身につけたいと思います。

真宗におけるお内仏(お仏壇)は、生活の中心となるものとして継承されて来ました。核家族化、単身化が進む中、その意味が薄れてきているのが現状です。

今一度家にお内仏があるという事の意味も、この講座で問い直していきたいと思っております。



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

特集記事①～佐世保別院改築～

東本願寺佐世保別院は佐世保市中心街島瀬町の高台に位置します。明治中頃の「佐世保説教場」に始まり、大正末期に別院として創建されました。以来九十年にわたり、この地の念仏道場として使命と役割を佐世保空襲にも焼け残り、はたしてきました。しかし、別院建物の現況を見ると、本堂は平成二年に大規模修復を

終えましたが、庫裡は老朽化が著しく、危険箇所も増え、その機能を十分にはたせなくなっています。このような中で、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を機縁に、別院が将来にわたって時代に応じた聞法道場として、その機能をはたすべく、教化研修施設として「佐世保別院会館」の建設に着手することになりました。

創建からの経緯

←別院の本堂



改築の詳細

今回の記事は、総代の丹野さんに取材・執筆していただきました。取材には諫早の岡和生さんも同行して下さり、写真を撮って来て下さいました。



本堂左側の幼稚園跡地に、二階建ての会館と納骨堂を併設して、別院の庫裡として御門徒の法事や葬儀式等の会場に、また、長崎教区の教化施設として聞法・研修の場所に確保され、参道・駐車場等も利便性を考えて整備されます。真宗門徒ばかりでなく、広く市民に開かれた施設として多くの人々に望まれていきます。着工は来年末で、平成二十

↑幼稚園跡地。
二階建ての門徒会館／庫裡／納骨堂を建設予定。

←現在の庫裡老朽化が進んでおり、右記の建物に統合予定。



八年秋の完成予定です。

先般より御門徒の方々には、御懇志金(三千円)をお願い申し上げておりますが、昨今の消費税値上げ・物価・人件費等の高騰により、建設費増加に規模縮小を検討されているところですので、将来にわたり、別院報恩講を教区の御同朋の拠り所として伝えていきたいものです。

正法寺総代 丹野敏幸(久原)

「洗心会」会報



昭和五年 洗心婦人会の写真

「洗心婦人会」は

女性部「洗心会」として

新たな歩みを始めます

【会長挨拶】

一月の初会にて女性部「洗心会」がスタートしました。上記の写真が語るように洗心婦人会は、昭和五年以前（八十五年前）には既に存在していました。「洗心」という言葉は聖典の六五頁「仏説無量寿経下巻」から用いられたようです。二〇一四年教区婦人会のサブテーマは「生きるってなあに」となりました。まさかまさかに遭遇していく人生。日常の当たり前がどれだけ感謝で受け止められるかが日々の課題です。洗心会は、自分の思っていることを素直に声に出していける会になるようにと願っております。

洗心会々長 堀出 美智子

【坊守挨拶】

写真の時代とは、女性の生き方、社会での立場は随分変わりました。しかし今でも洗心会には脈々と「念仏相続の願い」が受け継がれています。「洗心会」には新しい時代を生き抜いておられる女性の方々にぜひ参加していただきたいと思っています。お寺を支えるお仕事も大切ですが、洗心会をきっかけに「お念仏の教え」に出遇っていただけたらと思います。急速に変化する現代社会においてこそ、仏教という普遍の教えは光を放つはずでです。女性はおしゃべりも、仲間作りも上手です。まずは坊守の私とのおしゃべりからでも！お待ちしております！

正法寺坊守 長野 文



新緑美しい4月18日、洗心会では一日研修旅行(日帰り)に行きまして。一番の目的は、以前より要望が多かった八女の浄慈寺さん訪問。いつも敬老会の際にご法話下さる島村先生がご住職のお寺です。先生のご法話の後は、婦人会の方々による手料理をいただきました。午後からは黒木に移動し、グリーンピアにて昼食、その後は樹齢600年大藤の見学等をいたしました。

洗心会一日研修旅行

浄慈寺(八女)～黒木(グリーンピア/大藤)



■新緑にパワーを感じ、小鳥の鳴き声に癒されながらの法話、素直な気持ちになりました。また、旬料理は絶品でした。おもてなしの心に感激の一日でした。

(K・Hさん)

■車中野や山の緑一色を見ながら浄慈寺に到着。島村先生の新緑にパワーを感じ、小鳥の鳴き声に癒されながらの法話、三役の方々お世話いただき感謝いたします。よき御縁をありがとうございました。おかげさまで。行く道は決まっています。今日の出遇いを大切に過ごしたいと思えます。

(S・Sさん)



研修旅行に参加して



一日研修会が中止になりました

7月10日に開催予定にしておりました一日研修会が、台風8号の影響で中止になりました。予定では真宗の教えをクイズ形式で学ぶ「真宗入門クイズ」と、会員同士の交流でした。法話を聴く前に何かしら教えに親しんでいただけるようにと初心者向けのクイズをたくさん用意していただけに大変残念です。また会員同士の交流では今後の洗心会の活動について皆で話しましょう！という企画がありました。ぜひ日を改め開催したいと思います。

台所奉仕に女性部の方がたくさん参加されています!!同じ地区の方に久しぶりに会われ、近況を報告される場面も多いようです。参加してみませんか?



釈尊降誕会/初参り式/子ども花祭り



5/18(日)開催



花まつり以降、きちんと「いただきます、ごちそうさま」が言えるようになりました。(参加児の母)

洗心会・子供・保護者と世代を超えた集いの場となりました！



講師の寺本先生と初参りのご家族とで記念撮影



洗心会と子供合同でゲーム



初めて花祭りに参加しました。子ども達も初めてお寺に入りお話やゲームを楽しませて頂き、とても良い経験になりました。(参加児の母)

住職が語る・・・

正信偈を知ろう! 第6回



ふほうむりようむへんこう むげむたいこうえんのう

普放無量無辺光 無碍無对光炎王

しょうじようかんぎちえこう ふだんなんしむしょうこう

清浄歓喜智慧光 不断難思無称光

ちようじちがっこうしょうじんせ いっさいぐんじようむこうしょう

超日月光照塵刹 一切群生蒙光照

前回に引き続き、阿弥陀如来の一

二種の光明について説明致します。

前回は5番目の光炎王光まで解説し

ましたので、6番目の清浄光からお

話し致します。

⑥清浄光 私達の欲の心を照らし

てくださる清らかな光のことです。

仏教では私達の欲の心を貪欲とんよくとい

ます。常になにかを求めてむさぼつ

ていく、どれだけ手にいれても満足

を知らない私達の心のあり方です。

そういう私達の欲の深さ、汚さに気

づかせて下さる仏の智慧を清浄なる

光というのです。

⑦歡喜光 私達の怒りや憎しみにとらわれ

た心を和らげ、喜びに変えてくださる光で

す。仏教ではこの怒りにとらわれた心の状

態を瞋恚しんにといいます。私達は様々なことを

求め生きていますが、それが何かに妨げら

れたとき怒りや憎しみの心がおきてきます。

時にその心は理性を奪い、重大な事件を引

き起こしてしまふものです。でも実はその

心は、「思い通りにしたい」という私達の

欲の心を因としておこってくるものだと仏

教は言い当てて下さっています。そういう私

達の心のあり方を見つめ直す智慧をいた

だしていくのが歡喜の光というものです。

⑧智慧光 私達の愚痴の心を破ってくれる

仏様の智慧の光です。愚痴というのは、無

知であるということ、真実を知らないとい

うことです。欲の心も怒りの心も、この無

知の心からおこってくるといわれています。

この光は自らが無知であることに気づかせ、

苦の原因である無知の闇を破ってください

光です。

⑨不断光 一刻も絶えることなく、私たち

を照らし続けてくださる如来の光です。移

ろいやすい私達の心は常に阿弥陀仏を思い

続けることは不可能です。ですが、そんな

私達でも変わらなず照らし続けてくださる如

来の本願に気付いた時、真実の信心をいた

だいていく身となるのです。

⑩難思光 思いはかることのできない人間

の智慧を超えた光です。煩惱の身のままで

浄土に往生させてくださる如来の不可思議

なる光のはたらきをあらわしたものです。

⑪無称光 とても言葉では言いあらわせない

阿弥陀仏の智慧の光です。この光のはた

らきによつて仏とならせていただくのです。

⑫超日月光 日や月の光よりも勝れ、昼夜

の別なく照らししてくれる光です。どんな時

もどんな所でも常に私達の煩惱(貪欲・瞋

恚・愚痴)の闇を照らし、真実へと目覚め

させて下さるはたらきをあらわしたもので

しょう。

「あらゆるものを救いたい」と願われる

慈悲の光。苦の原因である煩惱の闇を破る

智慧の光。阿弥陀の光は様々な徳を持って、

塵のように無数に散らばっているあらゆる

存在を照らし続けてくださって

います。それはお念仏となつ

て私達に届き、響いてくる

ものではないでしょうか。

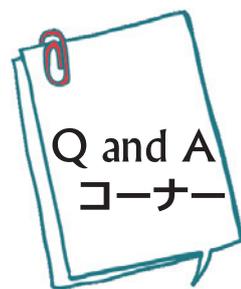


正法寺は皆さんで作るお寺、皆さんで作る新聞を目指しています。お寺に関する思いや思い出、この新聞を読んだ感想などお寺宛にお送りくださいませ。

〒856-0828
大村市杭出津2-708
正法寺・
新聞寄稿文宛
E-mail:
info@omura-shoboji.net



Q. 仏前でリンは打つの？
A. お寺のご本尊の前やお内仏(仏壇)の前に座わられると、目の前にあるリンを「チンチーン」と打たれた後合掌される方が多いようです。テレビなどの影響も大きいのかもしれませんが、神社参りなどの作法も関係しているのではありません。しかし本来リンというのではありません。しかし本来リンというの、読経の前後や中間に合図として使うものでおやみに打つものではありません。私たちは阿弥陀様の方から願われている(呼びかけられている)身です。ご本尊の前に座りご本尊を仰ぎ見て合掌し、その願いに「南無阿弥陀仏」とお念仏いたしましょう。



正法寺キッズの参加者募集中!

「正法寺キッズ」がスタートしました!本堂中を走り回る子供達ですが、お勤めになるときちんと正座をして正信偈を称えます。本堂という「場」の力を感じておるところです。正法寺キッズは出入り自由、参加費もかかりません。また、当初小学生以下はお断りしていましたが、**保護者同伴であれば可能としました。**みんなで書く『正信偈』やゲームなどをしています。興味のある方はお寺にお問い合わせ下さい!次回は9月6日(土)14時~です!

ライブの感想より

(老若男女問わず90名ほどの方が来場)

- 大勢の人の中において感じていた孤独に自然と涙がこぼれた。(男性)
- 会社を休職中で外にもあまり出ないけれど思い切って来ました。(30代男性)
- 目に見える物は消える心に残る物は消えない。の歌詞いいですね。(80代女性)
- 本堂での音楽を初めて聴きとても感動しました。(70代男性)
- 行きたいライブだったので旅行を兼ねて来ました。(女性)
- タテさんの歌声とピアノ演奏に圧倒されました。(30代女性)

3/17 倶会一処ライブ開催



法話の名和達宣師

歌って下さったタテタカコさん

編集後記 正法寺新聞5号いかがでしたか? 一年となりませす。今後も新聞での特集が続きますので、どうぞ引き続きご愛読下さいませ。(編集責任者/坊守)